

保育計画成果報告書

法人名等	学校法人正良学園
施設名	認可保育所 Bambini
報告者（役職）	本 真由美（園長）
住所・連絡先	東京都大田区田園調布 1-50-6
	☎ (03)3722-1771
	E-mail bambini@narashinodai.ed.jp

○タイトル（保育計画）

狭い園庭でも子どもたちの創造力は無限大！！

○主な助成備品

砂場・菜園整備

1. 保育計画策定の目的

2019年4月に開園した【認可保育所 Bambini】は都心の住宅街の一角に建てられた。とても狭いが、園舎周りには少しの空間があり、乳児クラスがかけっこやボール遊び・夏になると水遊びで使用する程度の大きさである。きちんと整備されているわけではなく、簡易的に職員が人口芝生を敷き詰めて完成させたものであった。目の前には自然豊かで大きな公園もあるが、車も自転車も歩行者も行きかう住宅地特有の狭い道路を通らなくてはいけない。近いとはいえ、安全が確保されているとは言いきれなく、狭いながらも園庭をもっと有効活用できる方法を考えていた。

<砂場>

1～2歳児が主に利用できる空間とし、砂を触ったり道具や水を使ってお山や泥だんごを作る遊び（感触あそび）を通して、五感を刺激しながら創作意欲や創造性を育んだり、指先の発達を養っていく。また、物の貸し借りなどを通して友だちや保育士とのコミュニケーションを図っていくことによって社会性や協調性を身に付けていく。

<自然菜園>

子ども達と土に触れ、種や苗を植え、毎日の水やりや観察を通じ子ども達の興味関心を高めると共に、野菜を育てながら命を育てる実感を持たせ、豊かな感性を育む機会を作っていく。年中長児では、野菜ができるまでの過程の観察記録をとることで、小さな変化にも気づける眼を育てていくと共に、季節に応じた植物や野菜を育てることで四季への興味を深め、自ら考え調べ、行動に移す主体性を育んでいきたい。

年少児では収穫したものを剥いたり洗ったりして自分たちの手で調理し食べることで、野菜をしっかりと食べるという意欲を育てていきたい。また同時に『食べ物に対する感謝の気持ち』や『作ってくれた方への感謝の気持ち』も大切にしていきたい。

2. 具体的な実施内容

園庭・砂場の整備

菜園の整備

3. その成果と評価

【園庭整備】

水はけが良くなり、夏の暑い時期には水遊びを存分に楽しむことが出来た。

また、整備前は地面の凹凸が多くあり、足元のおぼつかない乳児クラスの子どもが歩行するには転びやすいという難点があった。整備後は歩行や走ることがしやすくなり怪我の減少にも繋がっていった。

【砂場】

主に乳児クラスが使用。

園庭で遊ぶ際に、遊びの選択肢が増え戸外活動の充実に繋がった。

砂場遊びは、感触遊び・造形遊び・ままごと遊び等、環境・人間関係・言葉・表現といったいろいろな視点からの成長に繋がっている。



【菜園】

4・5歳児が食育活動の一環としてオクラとなすを育てた。

水やりや雑草抜き等の経験をし、植物の育つ過程に関心を示しながら取り組むことが出来た。

コロナ禍だったため、収穫した野菜を使った調理活動を行うことが出来なかったが、自分たちが育てた野菜を給食職員に調理してもらって食べることで、苦手な野菜を食べるきっかけにもなっていた。



また、実際に育てることはできなかったが、業者から【さつまいも】の芋ほり体験として葉っぱ付きのさつまいもをいただき、畑に埋め込み【芋ほり】体験を行うことが出来た。



4. 今後の課題と展望

都会には、当園のように小さい・狭い園庭の保育施設が多くあると思う。思い切り走って遊ぶことは難しいが、工夫すると遊びの幅が広がり、大切な乳幼児期のさまざまな発達を促していけると感じた。

畑に関しては、今年度は夏場の菜園活動のみの使用となった。今後は、子どもたちの興味関心に合わせながら、四季を通して活用していけるようにしたい。

砂場に関しては、環境をもう少し整え、遊びやすい工夫（道具置き場やベンチの設置等）をしていきたいと考えている。

以上